

平成 25 年度新潟大学前期日程入学試験学力検査問題

- 4 平面上の 2 つのベクトル \vec{a}, \vec{b} はそれぞれの大きさが 1 であり、また平行でないとする。次の問いに答えよ。

(1) $t \geq 0$ であるような実数 t に対して、不等式

$$0 < |\vec{a} + t\vec{b}|^2 \leq (1+t)^2$$

が成立することを示せ。

(2) $t \geq 0$ であるような実数 t に対して $\vec{p} = \frac{2t^2\vec{b}}{|\vec{a} + t\vec{b}|^2}$ とおき、 $f(t) \geq \frac{2t^2}{(1+t)^2}$ が成立することを示せ。

(3) $f(t) = 1$ となる正の実数 t が存在することを示せ。

— 解答例 —

(1) まず $|\vec{a} + t\vec{b}| \geq 0$ が成り立つ。ここで、 $|\vec{a} + t\vec{b}| = 0$ とすると、 $\vec{a} + t\vec{b} = \vec{0}$ ゆえ、 $\vec{a} = -t\vec{b}$ となり、 \vec{a}, \vec{b} が平行でないことに反するので、 $0 < |\vec{a} + t\vec{b}|$ である。

次に

$$|\vec{a} + t\vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 + 2t\vec{a} \cdot \vec{b} + t^2|\vec{b}|^2 = 1 + 2t\cos\theta + t^2$$

ここで、 \vec{a}, \vec{b} のなす角を θ とした。

$t > 0, \cos\theta \leq 1$ なので、

$$1 + 2t\cos\theta + t^2 \leq 1 + 2t + t^2 = (1+t)^2$$

となり、 $|\vec{a} + t\vec{b}|^2 \leq (1+t)^2$ が成り立つ。

(2) (1) より、

$$f(t) = |\vec{p}| = \frac{2t^2|\vec{b}|}{|\vec{a} + t\vec{b}|^2} \geq \frac{2t^2}{(1+t)^2}$$

(3) $t \geq 0$ のとき、

$$f(t) = 1 \iff 2t^2 = |\vec{a} + t\vec{b}|^2 \iff 2t^2 = 1 + 2t\cos\theta + t^2$$

ただし、 θ は \vec{a}, \vec{b} のなす角である。

$f(0) = 0$ に注意すれば、 $f(t) = 1$ となる正の数が存在するのは、

t の 2 次方程式 $t^2 - 2t\cos\theta - 1 = 0$ が正の実数解を持つことと同値である。

$y = t^2 - 2t\cos\theta - 1$ のグラフは、下に凸の 2 次関数のグラフで、 y 切片が負なので正の解を一つ持つ。

【感想】

(3) の解答で、(2) を使うものが思いつきません。(2) も (3) も易しいので、これはどういう意図なんでしょうね。